



長崎市立手熊小学校だより

第22号

舞 岳 お ろ し

令和5年12月14日

校長 高木留美子

RENEWL 手熊っ子～もう 12月・・・

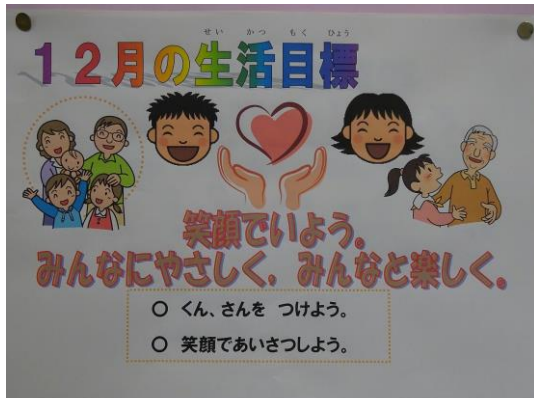
あっという間に12月です。毎年のことながら、12月になると忙しく感じます。学校も例外ではなく、各学年2学期のまとめを頑張っているところですよ。

子どもたちは、寒い中でも、以前学校だよりでもお知らせしたとおり、朝から鬼ごっこ等を楽しみ、昼休みは運動場や体育館で元気に遊んでいます。

最近、子どもたちの様子で嬉しい姿がありました。まず、集会などの際にきちんと話を聞くことができるようになってきていることです。以前は、先生方が話をしているのをさえぎるように喋ったり、笑ったりなどその場にふさわしい姿ではなかった子どもたちも、少し落ち着いて話を聞くことができるようになってきました。学習についても、一生懸命に取り組んでいます。昨年度心配したタブレットの使い方も、最近では学習のツールとして定着してきています。さらに、本校にはたくさんのお客様が来校されますが、子どもたちがすすんで大きな声で挨拶をする声がひびくようになりました。お客様からもお褒めの言葉をいただきました。

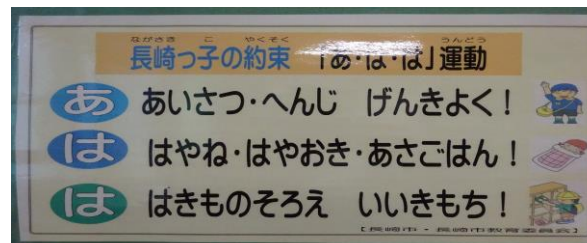
2学期の残りの日々も怪我無く事故無く、楽しい学校生活を送ることができますよう努力いたします。

みんなで楽しくゲームをしました(なかよし集会)



月に一度、生活目標等をお知らせします。

子供たちには毎月の全校集会で指導しています。



校長のひとり言～嬉しい再会

先日、嬉しい再会がありました。担任した子どもの保護者の方と私が幼いころからの知り合いの方。どちらも15年ぶりの再会です。そのお二人、職種は違うのですが、長崎のことを日本中のそして世界中の人に知ってもらいたいと日々邁進しておられることを聞きました。「自分にしかできないことをしたい。大好きな長崎を盛り上げたい。」という熱い思いの原動力が【ふるさとを愛する気持ち】であることを感じました。手熊っ子にもこの方たちのように大人になっても長崎が大好き！と言える子どもたちになってほしい、そのために私ができることは何かと改めて考える機会となりました。